ふるさと岩室は、遠い昔からさまざまな歴史を生み出してきました。そのふるさとの歴史を一つ一つ紹介していくページです。

その26

近代文化の普及と村民生活

■今月の「ふるさと再発見」シリーズ第二十六回目の今回は、大正期から昭和期にかけて急速に進展した近代化、それに伴う村民生活についてご紹介しましょう。

●越後鉄道の開通

明治後期から大正初期にかけて、全国的な鉄道開通ラッシュの中で、本県の鉄道路線も着々と開通路線を延ばしていました。明治三十七年には、ついに新潟から上野まで信越線を利用して、朝の一番列車でその日のうちに上野につけるまでになっていました。こうした中で、明治四十四年、三島郡小島谷の久須美秀三郎を中心として越後鉄道株式会社が創立され、新潟から日本海沿岸の町村を結んで出雲崎までの鉄道開通をめざして鉄道開発事業が進められました。

大正元年に、まず「白山」「西吉田」間が開通し、開通当時は大人や子供たちが珍らしがり危険をもかまわず線路わき近くまでむらがって見物していたといいます。

▲越後鉄道「和納」停車場

そして大正二年に出雲崎までが開通、大正五年に西吉田・弥彦間接続開通、大正十一年には西吉田・燕間開通、さらに大正十四年には燕・東三条間が開通するなど、大正期を通じて越後鉄道の開通路線は次第に拡張されていきましたが、営業成績はあまりあがらず、ついに昭和二年国鉄に買収されて、越後線及び弥彦線となりました。

●県道の開発

当時、岩室村の最良の道路は、石瀬を通る旧北陸道でありました。記録によると、道巾平均三間で、馬車・人力車・大八以下荷車などの通路として利用されていました。しかし、同じ記録によれば、石瀬村から間瀬村境まで十町十間の距離のうち、人力車・荷車などは峠にいたらない平地でしか通行できませんでした。特に道路事情の悪かったのが富岡地区で、こうした道路交通の悪さを改善するため富岡地区では明治三十二年以来県道新設の運動を開始して以来、二十年間の歳月と約二百円の運動費をかけ、大正四年六月ついに県道新設が決定されました。

大正期を通じ県道は村内から郡内外の各地にのび、県道による一応の道路網が整備されました。

●電話局の開設

大正五年、和納村富岡の長谷川常吉氏は「富岡是」の中で文化の進展をこう述べています。

「…今や我が維新ノ御代トナリ国運発展シ交通便利開ケ電信電話ノ至ラザル所ナク座シテ談話ヲ通ズ…」。当時の新しい文明の発展を「維新の御代」とまで表現するほどに村の青年たちは文化の飛躍的進展に驚きの目を見はっていました。

電話は、大正期に入り一段と普通発展、大正十年には和納電話局も開設され、新潟から全国各地に電話による通話が可能になりました。

●ランプから電燈へ

夜の灯明は、大正期はまだ明治以来のランプが全盛でした。煙も出ず部屋中を明るく照らす文明の利器電燈が、岩室に普及しはじめたのは大正も後期に入ってからでした。

大正十年七月に樋曽地区が、同年十月に北野地区が地区民合意のもとに電燈設置を電気会社に申し込みました。この電燈申込に際して、各地区では電燈料金の共同徴収、電燈供給規程確守や設置工事に伴う協力体制の確保など、少しくらいの犠牲をはらっても電燈を至急導入しようとする積極的なようすがうかがえました。

こうした地区民の強い要望によって、大正十年以降、各戸に十燭光が一～二個程度というまだほの暗い光ではありましたが、ランプにかわる、まさに文明の光が家々の夜のだんらんを照し始めました。

▲大正期の「岩室郵便局」

今回ご紹介した内容は、「岩室村史」の中から抜すいして掲載したものです。詳しくは、岩室村史をご覧ください。（村史をご希望の方は一冊五千円）役場総務課までどうぞ。

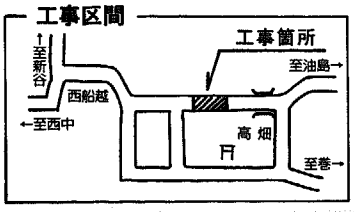
工事のため 通行止となります

十二月一日から三月三十日まで、村道夏井高畑線の高畑地内の一部（左図）が、大通川放水路の橋梁工事のため全面通行止となります。皆さんには大変ご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。

なお、大型車の迂回路については、表示板に従ってください。

●工事期間

12月1日～平成6年3月30日まで



ただいま工事中

（入札結果から）

工事名・場所	工事費（万円）	完了予定日	工事業者
■村道工事			
・医療センター西長島線（西長島地内）	319	12/17	㈱岩室廣瀬組
・西中巻線（横曽根地内）	628	6. 2/25	㈱岩室廣瀬組
・和納火葬場線（和納地内）	2,575	6. 3/27	本宏建設㈱
・和納津雲田線（和納地内）	155	12/17	地野組
■林道工事			
・開ノ木平線（間瀬地内）	2,627	6. 3/22	㈱水倉組

■広報いわむろ 第三八〇号 平成五年（一九九三年）十二月一日発行（毎月一回一日発行）■発行 岩室村役場 ■編集 総務課 ■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇（〒九五三―〇一）■☎〇二五六―八二―四一一一（代）■印刷 北洋印刷㈱